

株式会社イマナガ  
2020年度 CSR報告書



本報告書は、株式会社イマナガのCSR（企業の社会的責任）に関する考え方や取組みについてステークホルダー（利害関係を有する方々）の皆様にはわかりやすくご報告し、ご理解いただくことを目指しています。

弊社では、このCSR報告書以外にもホームページや公益財団法人産業廃棄物処理振興財団の産廃情報ネットにてさまざまな情報を更新しております。

## WEB サイト

公益財団法人産業廃棄物処理振興財団の産廃情報ネット

<http://www.sanpainet.or.jp/>

株式会社イマナガ ホームページ

<http://www.imanaga-r.co.jp/>

## 対象期間

2020年度（2019年8月1日～2020年7月31日）まで

## 対象組織

株式会社イマナガ

## 発行時期

2013年8月（初回）

2014年8月（2版）

2015年8月（3版）

2016年8月（4版）

2017年8月（5版）

2018年8月（6版）

2019年8月（7版）

2020年8月（8版）

## 【目次】

基本指針・環境方針	1
トップメッセージ	2
会社概要	3
組織体制・ISO14001：2015への取組み	4・5
CO <sub>2</sub> 排出量の把握	6・7
デジタルタコグラフ設置車両の燃費	7
従業員教育（外部）	8・9
従業員教育（内部）	10・11
太陽光発電の状況	12

# 基本指針・環境方針

## 基本指針

株式会社 イマナガは、廃棄物の資源化・有効利用を継続して実行することを最終目的とし、廃棄物を適切に処理することにより環境負荷を低減し、処理技術の向上に努め、収集運搬から中間処理まで一貫したシステムによる再資源化 100%を目指し、循環型社会づくりに貢献する事業活動を行います。

## 環境方針

1. 当社事業活動の廃棄物の資源化・有効利用を促進するうえに於いて、気候変動の緩和及び気候変動に適応し、継続可能な資源の利用のため、省エネルギー・省資源を推進し、環境保護に努めます。
2. 生物多様性及び生態系の保護に配慮し地域貢献活動への参加並びに森林認証製品等の購入を推進し、また環境影響に関しては自主基準値を設定し、汚染の予防に努めます。
3. 環境保護活動を有効なものにするために環境目標を設定し、継続的な改善を行います。
4. 環境関連の法規制、その他の要求事項を遵守し、取引先、出荷先等を含めてコンプライアンスの強化を図ります。
5. 地域社会との協調を図り、情報開示とコミュニケーションに努めます。
6. この方針は社内外に開示するとともに、全従業員及び当社に係る事業者に周知します。

2020年 5月 1日

株式会社 イマナガ

代表取締役 今永 良二

# トップメッセージ

2001年に弊社がISO14001:1996をJQAの環境マネジメントシステムに登録をした際は、環境マネジメントマニュアルを制定することにより、廃棄物処理業者として環境関連の法規制を順守し、廃棄物処理に係る技術の開発や環境汚染の防止など、目標を設定し継続して改善していくことや、従業員教育を継続的に行い、環境方針を周知することにより関係する企業の方に取り組みを認識していただくということに重点が置かれていたと思います。

2015年にMDGsが達成期限を迎えたことにより、新たな目標としてSDGsが世界の目標として定められています。この15年の間に世界でどのような変化があったのでしょうか？

このSDGs(持続可能な開発目標)には、2030年までに達成すべき17の目標があります。

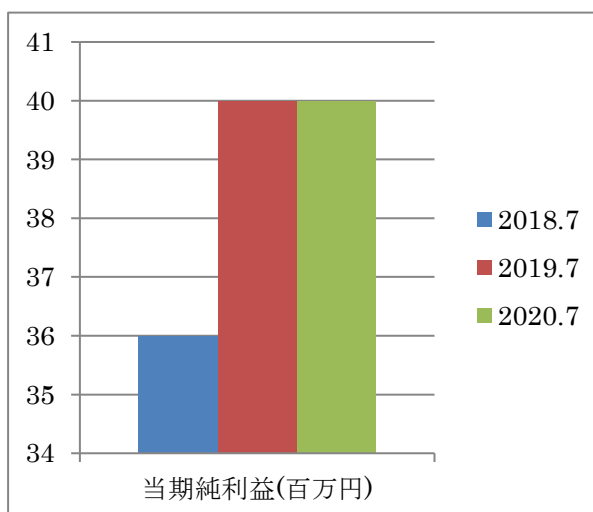
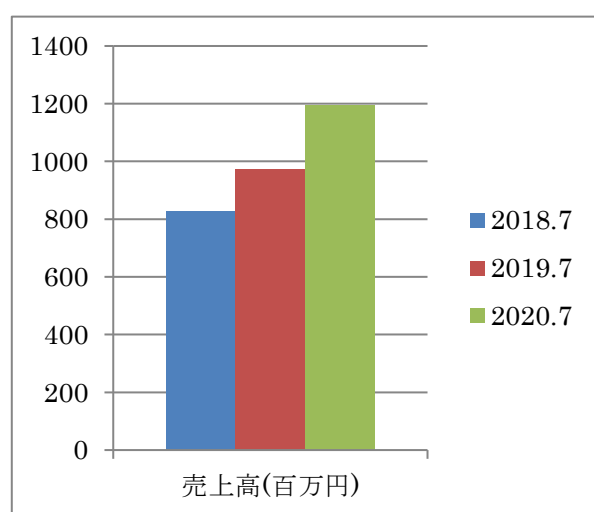
1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 平和と公平をすべての人に
17. パートナリシップで目標を達成しよう

15年という長い時間をかけて、環境に対する意識は大きく変化していますが、気候変動などは人類が追い付かない速度で変化していっているような気がします。大きな気候変動により生命の危機に瀕するのは、貧困や飢餓にあえいでいる人々であり。温暖化現象の大きな原因は、大量消費を行ってきた私たちではないでしょうか。一つの企業単位ではなく、国単位ではなく、人類の目標として取り組んでいかなければならない17の目標です。これは企業の責任だけではなく、個人が取り組んでいかなければならない問題だと思います。弊社のISO14001:2015で行っている、環境問題への対策、従業員に対する労働基準法の遵守や安全教育の実施、人権教育の実施、地域への貢献などが企業の評価につながり、全従業員一丸となってこの取り組みを行うことが地球のリスク管理につながるのではないかと考えております。

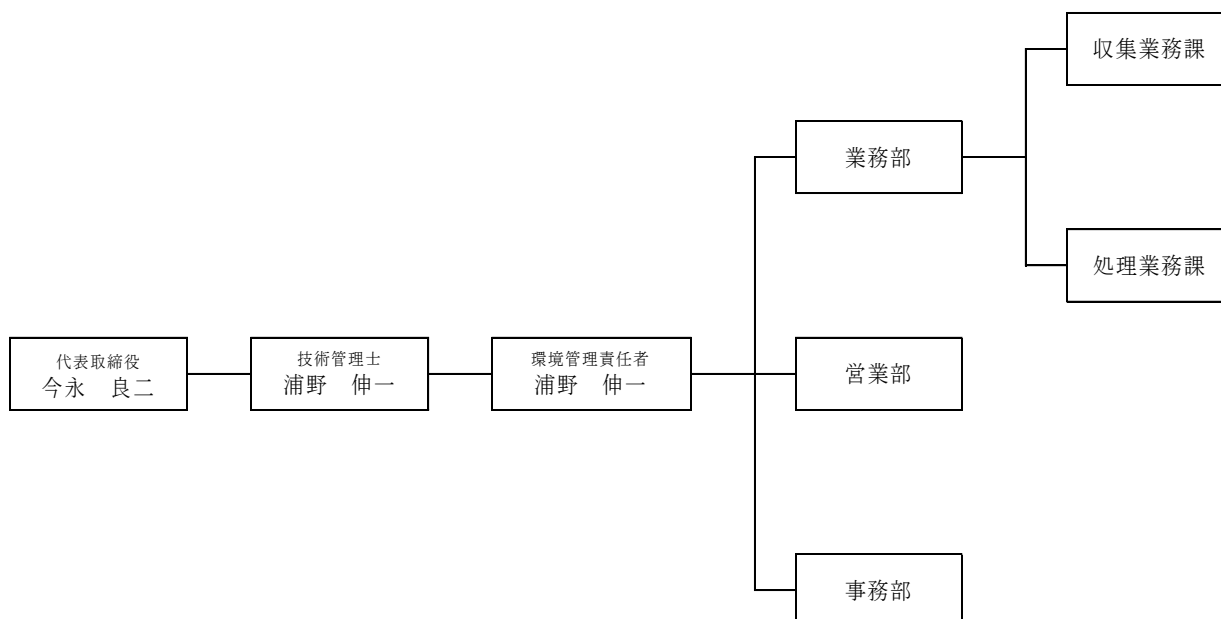
## 会社概要

所在地	〒800-0115 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 2 号 TEL093-481-5097 FAX093-481-5098 Mail : info@imanaga-r.co.jp
代表者名	代表取締役 今永良二 (2020 年 5 月 就任)
役員	取締役 今永進二 監査役 今永洋子
従業員数	45 名
工場所在地	本社工場・第一工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 2 号 第二工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 1 号 MR 工場・MR 第二工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 41 番
資本金	50,000,000 円
ISO14001 認証番号	JQA EM-1520 (2001 年 4 月 13 日登録)
取引銀行	福岡銀行 門司駅前支店 北九州銀行 門司支店

## 売上高と当期純利益の 3 年間の推移



## 株式会社イマナガ組織体制 (2020年5月1日改訂)



2020年5月1日より代表取締役が今永進二から今永良二に変更になっております。

### ISO14001：2015による環境への負荷低減の取り組み(2001年4月13日登録)

期間	重点目標
2017. 8. 1～2018. 7. 31	2018. 3. 23 ISO14001:2015 に規格改訂 2017. 12. 14 Gマーク更新 (2018. 1. 1. ～2020. 12. 31 迄)
2018. 3. 23～現在まで	2019. 4. 13 ISO14001:2015 登録更新 2020. 7 Gマーク更新書類提出

### 現在までの取組からの変更点

2019年4月にISO14001：2015に登録更新し、2020年2月20日に定期審査を行いました。これまでの書類を作成するISOから、活動を行うために何が必要かを常時考えていくISOに変化しています。実際に活動を行い、不要なもの必要なものを早急に判断し次の活動につなげていくことの速度が必要になりました。法律も時代とともに変化していきます。情報収集の方法も多様化しています。

### 現在までの取組により確立したもの

法を順守するという事は、廃棄物処理業者にとっては重要なことです。社会の変化に早急に対応し、法を守っていかなければなりません。これまで施設を稼働するための手順書を作成してきました。安全に配慮するためにはどのような教育が必要なのか、話し合いを重ねながら行ってきました。書類を作成し教育を行い、手順書どおりに稼働できるように指導してきました。しかし画一化した指導を行っていくことにより、自分で考えてみんなにその考えを伝えることができる人が少なくなってきたと感じています。

教育を行う際の指導者の力量が試されるときでもあります。指導者とは、信頼される人柄の持ち主であることが必要とよく言われます。確かに必要なことです。前向きな姿勢を見せる。仕事に対して愚痴を言わない。話しかけにくい雰囲気を作らない。相手の立場に立って考える。自分のやり方を強要しない。部下に対しても名前をきちんと呼び捨てしない。指導者の心得をインターネットなどで調べると沢山出てきます。それぞれ重要なことですが、一番重要なことは相手に対して人として接しているかではないでしょうか。「共に生きる」大切です。

### 地域社会との交流活動

会社周辺の清掃作業（3回／年）を行っています。

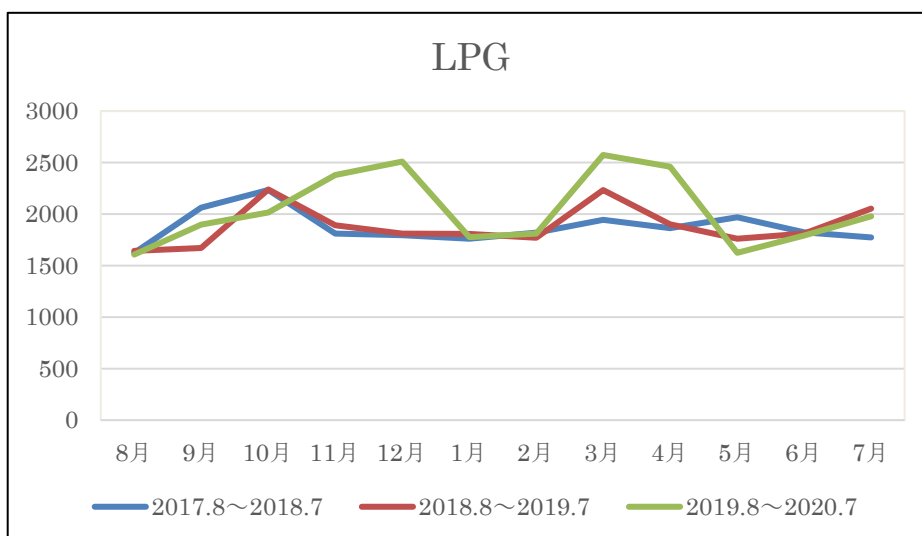
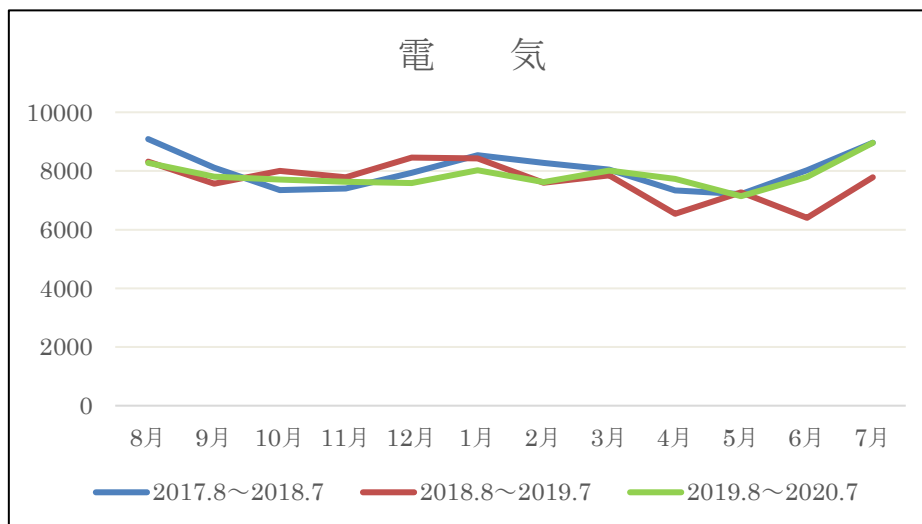
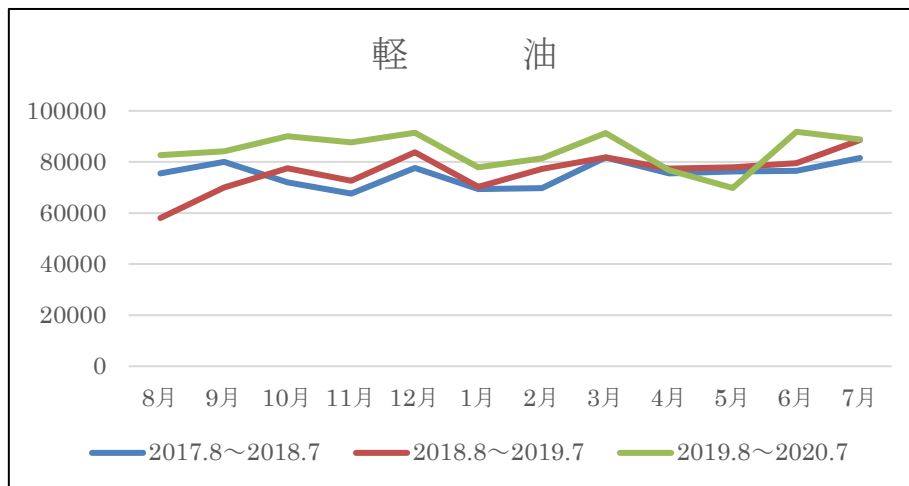
廃棄物を運搬する際に、道路上に飛散しないようにシート・ロープの点検も行っています。

会社周辺は工場が多く、大型トラックも通行しています。ごみのポイ捨て等もあって清掃作業を行っています。



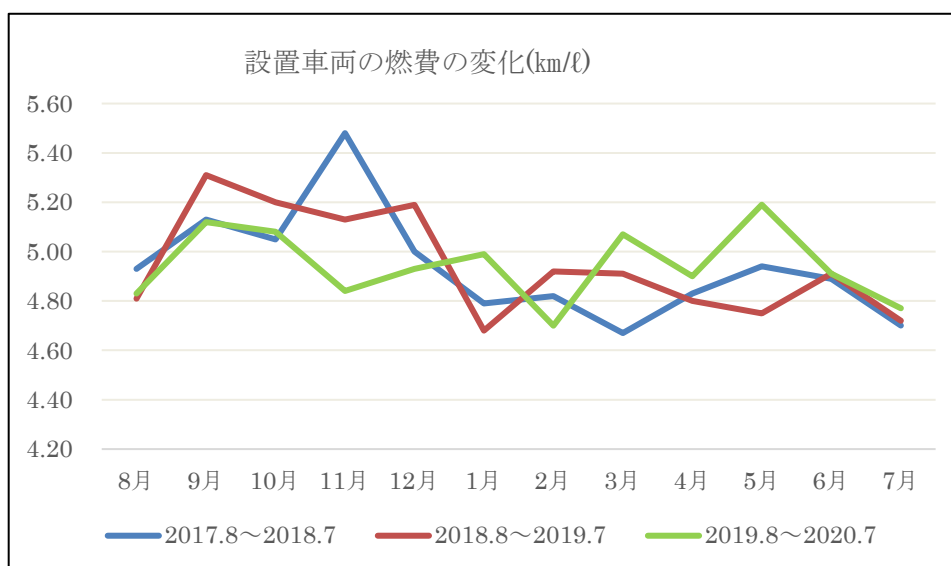
## 会社内で使用する燃料についてのCO<sub>2</sub>排出量の把握

※単位はすべて kg/CO<sub>2</sub> です





## デジタルタコグラフ設置車両の燃費（41台）



### デジタルタコグラフ設置後の車両について

現在 41 台の車両にデジタコを設置しています。ISO の目標で「安全エコ運転全員 90 点以上」を目標に頑張っています。

車両の増設に伴い、軽油の使用量が増加しています。

※環境省の温室効果ガス排出量計算のための算定式及び排出係数一覧表による

## 従業員教育

外部教育（2019年8月から2020年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
2019. 8. 19	産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の許可申請に関する講習会	2名
8. 28	顧客先入門安全教育	2名
8. 29	顧客先入門安全教育	2名
9. 5	危険物取扱者保安講習会	2名
9. 6	運行管理者等一般講習	1名
	危険物取扱者保安講習	1名
9. 9	危険物取扱者保安講習	2名
9. 21	小型車両系建設機械特殊教育講習	1名
10. 9	運行管理者等一般講習	1名
	副安全運転管理者講習	1名
10. 16	過労死等防止、健康起因事故防止セミナー	1名
10. 18	安全運転管理者講習	1名
11. 12	公正採用選考人権啓発推進員研修会	1名
11. 20	顧客先入門安全教育	3名
11. 26	車両系建設機械(整地等)運転技能講習	2名
12. 5	車両系建設機械(整地等)運転技能講習	1名
12. 17	改正フロン排出抑制法に関する説明会	1名
12. 25	車両系建設機械(整地等)運転技能講習	1名
2020. 2. 17	顧客先入門安全教育	2名
2. 20	顧客先入門安全教育	2名
2. 25	顧客先入門安全教育	1名
2. 27	顧客先入門安全教育	1名
3. 9	顧客先入門安全教育	1名
3. 11	顧客先入門安全教育	1名
3. 16	顧客先入門安全教育	3名
3. 18	顧客先入門安全教育	1名
3. 23	顧客先入門安全教育	2名
3. 24	顧客先入門安全教育	1名
3. 25	顧客先入門安全教育	1名

外部教育（2019年8月から2020年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
2020.3.26	顧客先入門安全教育	4名
3.27	顧客先入門安全教育	1名
3.30	顧客先入門安全教育	1名
3.31	顧客先入門安全教育	1名
4.1	顧客先入門安全教育	1名
4.8	顧客先入門安全教育	1名
4.13	顧客先入門安全教育	2名
4.15	顧客先入門安全教育	3名
4.20	顧客先入門安全教育	2名
4.22	顧客先入門安全教育	3名
4.23	顧客先入門安全教育	2名
5.11	顧客先入門安全教育	2名
5.14	顧客先入門安全教育	2名
6.24	顧客先入門安全教育	2名
6.25	顧客先入門安全教育	2名
7.29	顧客先入門安全教育	2名
7.30	顧客先入門安全教育	2名

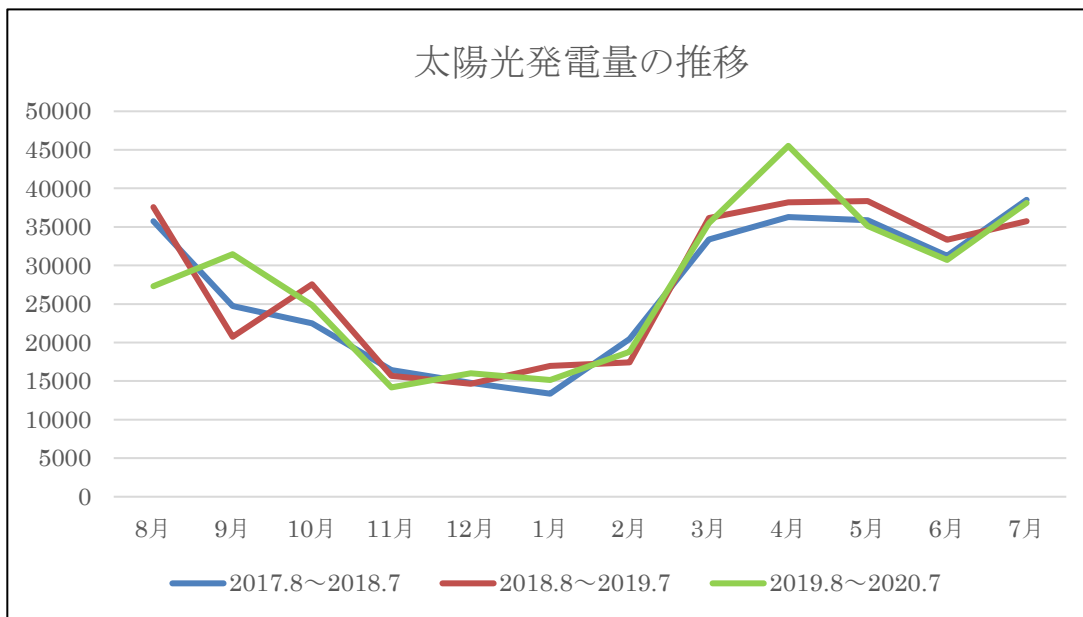
2020年は新型コロナウイルス感染症の為、外部講習は中止となっているところが多く、再開できれば受講しなければいけない教育が残っています。

内部教育（2019年8月から2020年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
2019. 8. 1	環境事故についての教育	21名
8. 6	圧縮機管理手順による教育	1名
8. 17	情報セキュリティ教育	21名
9. 6	収集運搬カードおよび処分カードの運用について	19名
9. 11	転倒防止対策の教育、ユンボ運転管理手順による教育	21名
9. 13	フォークリフト運転管理手順及びユンボ運転管理手順による教育	7名
9. 26	破碎機運転管理手順による教育	1名
10. 5	回転式大型油圧切断機管理手順による教育	1名
10. 10	新入社員雇い入れ時の教育	1名
	フォークリフト運転管理手順による教育	1名
10. 12	顧客先入構教育	10名
10. 15	顧客先入構教育	7名
10. 26	顧客先入構教育	3名
11. 11	新入社員雇い入れ時の教育	1名
	フォークリフト運転管理手順による教育	1名
11. 18	混合機作業管理手順書による教育	1名
12. 10	環境に関する知識教育	42名
12. 21	環境事故メモリアル活動	17名
12. 27	蛍光灯破碎機管理手順による教育	1名
2020. 1. 7～1. 10	収集運搬カード・処分カードの運用手順教育	9名
1. 23	ユンボ運転管理手順の再教育	1名
1. 30	合わせガラス破碎機運転管理手順による教育	1名
2. 15	車両系建設機械運転管理手順による教育	2名
	地震・津波想定での避難訓練、消火訓練	32名
2. 27	安全運転ハンドブックを使用した運転手の指導	1名
	万能1軸破碎機運転管理手順による教育	1名
3. 2	新入社員雇い入れ時の教育	1名
3. 21	緊急時対応手順による教育(収集業務課)	24名
3. 31	緊急時対応手順による教育(油水分離施設)	2名
	緊急時対応手順による教育(水処理施設)	2名
	緊急時対応手順による教育(中和施設)	2名

内部教育（2019年8月から2020年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
4.1	新入社員雇い入れ時の教育	1名
4.2	顧客先搬出作業手順書による教育	24名
4.8	ガラス破砕機運転管理手順による教育	1名
4.10	顧客先構内作業心得についての教育	18名
4.13	新型コロナウイルス感染症に関する知識及び対策	22名
5.8	顧客先入門時注意事項のルールについて	12名
5.11	圧縮梱包機運転管理手順による教育	1名
5.13	新システム操作についての教育(事務部)	1名
5.27	搬入施設に関する注意喚起	21名
6.9	圧縮機運転管理手順による教育	1名
	ガラス破砕機運転管理手順による教育	1名
6.24	構内作業に伴う安全衛生教育	9名
7.6	破砕機運転管理手順による教育	1名
7.8	水処理施設運転管理手順による教育	1名
	中和装置運転管理手順による教育	1名
7.10	治具の使用に関する教育	9名
7.15	マニフェスト伝票と廃棄物の管理について	22名

## 太陽光発電（イマナガ発電所）の状況

発電出力 306.0kW



### 太陽光発電について

弊社は、再生可能エネルギーとして太陽光発電を選択いたしました。2013年より順調に稼働しています。

毎年パネル等の点検を、設置していただいた業者をお願いしています。発電量を表示するためのパソコンなどは交換となりましたが、今年はパネルがホコリで汚れておらず、これまでで一番の発電量でした。また台風の直撃も受けておらず、破損もありません。

継続して発電していくためには、きちんとした点検が必要なのだと実感しております。

